

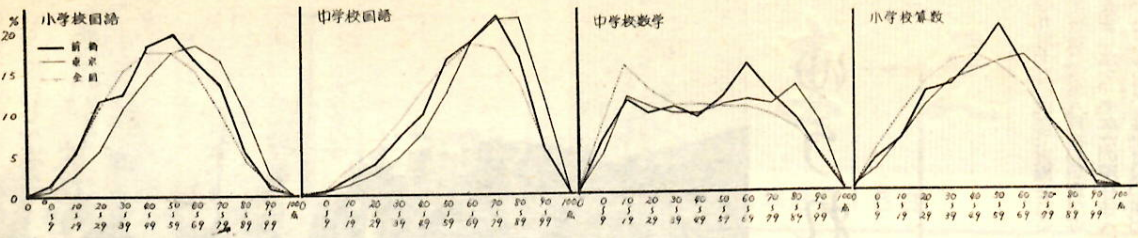
詩 萩原朔太郎詩碑 敷島公園 昭30・5
 詩「わが故郷に帰れる日 汽車は烈風の中を 突き行けり
 ひとりの車窓に目醒めは 汽笛は闇に吠え叫び 火焔は
 平野を明るくせり また上州の山は見えや。」
 (帰郷の一節)
 詩 萩原恭次郎詩碑 群馬大橋西欄干 昭34・4
 「汝は山河と共に生くべし 汝の名は山岳に刻むべし
 流水に傳ふべし。」
 歌 明治天皇御製歌碑 神明宮 (神明幼稚園東)
 「わが国は神の末なりかみまつる
 むかしのてふり忘るなよめ」
 歌 竹内 茂登子歌碑 広瀬川畔 (勢多会館西北)
 浜子 昭27・5
 茂登子歌「ゆきつりにふれし山椒は香にたちて
 こもれるしろき蝶まなちぬ」
 浜子歌「雪フランシス思ひ出でつつ 朝庭に
 むつふ小鳥のこえをききをり」
 歌 狩野利房歌碑 田口町 片石山頂 昭18
 「心あてに見れども見えつつお用の
 流れの末はうちかすみつつ」
 歌 藍沢無満歌碑 岩神町 関口製作所庭内
 「かみづ世になれるものかはしらぬみ
 石にもかかるあやのありける」
 歌 筆塚の碑 上小出町 香集寺
 「枝ならすかせばみやまのおくも吹く
 よし世の中にみみやまのおほわん」
 歌 勝山方教歌碑 芳町 正華寺 昭31・1
 湖上月「近江の海舟ぞくたびしもの
 あとの港に月かたきぬ」
 歌 柳原白蓮歌碑 堀川町 大泉寺 昭34
 ※「みすかたを百年のちに偲ぶとき
 ありしなごらのおもひでにせよ」
 歌 角田若穂歌碑 石倉町 林倉寺 昭13・12・30
 「尊之靈廟 染葉若真 今宵乃雨 比東都 阿加里爾
 茂乃書歌萬乃纏布」
 歌 孝女かめ歌碑 明前橋公園 昭28・11
 「簪の日和のうけくさきてめて
 にほう桜を見るとき姪しき」
 歌 行妙歌碑 芳町 養行寺境内 嘉永3・7
 (不詳)
 歌 柿本人麿歌碑 紅葉町殿島神社 (俗称人丸塚)
 「於久也料麿以之暇幾幾麻屋美都古吉里干
 巨比也和多舞阿婦乎指乎奈称」
 歌 俳諧之連歌碑 芳町 養行寺 明22・4
 天野孝吉、岩崎逸女による連歌(十八首)

家庭版

橋

測上毛錢

そこまでは
いつも黙って歩いた
むぞうさな
橋だったか
ふりかえるようなことは
めったになかった



学力調査の結果

能力を調査したものでないということに注意していただきたいと思ひます。下の表は平均点の一覧です。さきのにべたようにこの平均点は、標本調査によるのですからこれを真調査した場合におおして考え、次のことがいえますよう。

①東郷郡の結果と比べて、中学校校数にはほぼ同

学校種別 教科別		小学校		中学校	
		国語	算数	国語	数学
実施者別	前橋	49.8	46.9	63.3	49.3
	東京	57.3	50.4	69.0	52.0
	全国	49.2	43.6	60.3	44.4

はりのよう
になります
るほど、高
成績の子ど
もが多い
ことにな
ります。
四つとも
東京都が
最もよい
成績を示
し、つい
で本市・
全国の順
になって
いること

ものです。
学生は五〇名・
名を無作漫によ
りもたちを対象と
した。以下その結
じをいたします。
なされてる結果は
ハラストによも
子どもたちの語
数（語数）の全
ち、たはも算え、少年は急
のでした。さらにいもおで
おされよ」といわれ、ついに
強奪するといふことまな
じであるが、他はこごごそ
れより低い結果を示している。
○全国の結果とくらべると、小学
校国語がほぼ同じで、他はこご
ごそとそれより高い結果を示し

調査は、小学校・中学校・高等学校の国語・算数・理科・社会・英語・音楽・美術・体育・保健・家庭科・総合学習等の各教科・科目の学習到達度を調査し、その結果を各学校・学年・教科・科目別に集計し、公表する。また、各学校・学年・教科・科目別に学習到達度の高い・低い等の傾向を示す。また、各学校・学年・教科・科目別に学習到達度の高い・低い等の傾向を示す。また、各学校・学年・教科・科目別に学習到達度の高い・低い等の傾向を示す。

危険な少年期
満されない思いが悪の道へ

わたくしたちは
「アレが悪いから、コレがだめだから、青少年が悪くなるのも当たり前だ。」というこぼし口にするのですが……
ここにこんな話があります。皆さんといっしょに考えてみま
しょう。

さて、この例ではまず大事な問題は、家庭にあったと思ひます。つまり「家がおもしろくない」ということです。この少年はたまたま親がないのですが、親がいるとかいないとかということだけではありません。いてもおもしろくないという少年もかな

た。小学校でさむい顔の男も死別、中
に延も結婚のため別れるというあり
きとどこの二人暮らしとなつてしまひまし
なぐしともまた、干歳、中学生
とかで弟を六子に賣ちようとい
ふのでまたおへ帰る。おてく帰える
からおてく帰る。おてく帰るとい
うないのでまたおてく帰るとい
ら、ある日夜中にラーメンをおこ
したてるは屋敷のひとときは十年に
わ。当然のことでもかきななるう
づつてもらつていた少年も「たまには
の彙集のため、高校生が臨時計を
ふうになつてしまったのです」。

夏休みがあけて、どの学校で
も休みに作つた作品の展覧會
がわかります。また国語くらべ
数学の成績は、個人差の大きいこ

人々がもっと早く気づき、話しあいをもつて皆が力を合せるべ
きではなかったでしょうか。

○

① 家庭が大それたいう話になりましたが皆様いかがでしょう。
「お前はだめだ。弟を見ならえ」といつような親子で、兄弟
を差別するような注意を子どもにしていませんか？……
② 大人はかりの話でなく、ときたま子どもの話題を中心にして
話をしますか？……
③ 子どもがいるところで、ひとの悪口や夫婦の口論を聞いてま
せんか？……
④ 子どもたちとはどんな子であるか注意していますか。また、
わが子同様、あたたく接してやりたいものですがいかがでしょ
うか？……
⑤ 子どもの所持品や服装などに注意を払っていますか。
すじとお説教しても過剰に存りますが、なかなかやさしそうで
できないことです。たとえば子ども中心に話がすすんだときの子
ども自身、それは極めて高貴
きであり、さらに工作してみ
たい、美観の麗度の中には
力や推理力がうつしても必要

- ⑤ 夜おそく帰ったり、外食するため晩ご飯をたべたがらない。
- ④ 変な友人が出入りするようになり、また友人を親に会わせたがらない。
- ③ たずねてくる友人や、手紙などを免にするようになる。
- ② 服装や持ち物が変わってくる。
- ① 服装や持ち物が変わつてくる。

ともどもでもないいきいきとしてむしうはしいでくるほどです。わたしたちはこつうときの子どもの考えていることを知り、また無難なく善導できのものと思っています。

まあこんな調子で子どもを常に温かい眼で肩守つていれば、不良化へつけこまれるようなこととはないはずですが、さきほどお書きましたとおり子どもは悪の道へさそひ込まうとしてゐるいろいろなことがらがあることも事実です。

そこでこんどはこんな変化があったらよく注意する必要があるということについて述べてみたいよう。

ものを作る子
考える子

ものを作る子

考える子

ゆとりとするとは、あると体験できれば、これ以上教へ、大へん値ちがあるような気がする。こころした経験が、ゆたかに与えられると、簡単な家庭の電気機具の修理などは、みずから手かけるであらう。何よりも、自分から作り出すこと、また現在の集の子々ワシなども、ふたまたソケットや、鉄条網、

※ ※

⑦ 隠語（不良の使う言葉）をときどき使うようになる。

以上七つばかりあげてみました。が、ともあれ大事な子どもが、このようなことにならないように、忙しくて子どものことなど……といっているいでながけていきましよう。

さいごにまとめの意味で、青少年問題の解決のため、皆さんでどういうことに努力したらいいかということですが、群大内先生は次のようなことを述べられました。

① 青少年の集団活動を健全育成していく。（最近各地域で子ども会のようなすなお聞きします。）心強く存じます。

② 前述しましたとおり家庭の問題。

③ 青少年に対する施設の増設。

④ 環境を浄化する。

そしてさいごに強調されましたことは、

⑤ 少年なちをよくみつめ、よく理解していくことである。と申されました。

（井上淳・五中教員）

墓主 石原和三郎重誦碑 群大文学部校庭 昭30・11

「もしもし集よ 集さんよ、世界のうちでお前ほど歩みののろいものはない どうしてそんなにのろいのか」
(もしもし集よ 集さんよの一節)

民謡 平井晚村氏誦碑 前橋公園 昭6・9

「落葉掻くまゝ大人びし いたけな子に母はなく
父は庄屋へ米搗きに 留守は隣へこゝけて 連もなけ
れはひきつゝ 裏の林で日を暮す。」(落葉)

句 野村雨城句碑 敷島公園 昭31・6

「露蒼く大盪の雲に手をかきし」

句 前田普羅句碑 荒牧町 萩林北 昭14・8・16

※「草丈この秋風に帰り来よ」

句 倉田萩郎句碑 敷島公園 大15・7

俳 天地ここにひらく雪解かな」

俳 平井晚村句碑 天川公園 大8・9

※「芋甜れば婦しがる子の涙のけり」
句 高橋香山句碑 敷島公園 昭12・5

「星屑のうつろふをためたる弥生かな」
句 芭蕉句碑 日輪寺町 天神社境内 明24・4

「古拙な蛙とび込む水の音」
句 新井宗六句碑 川原町 新井一男氏庭 明20

「広言野を氣ままに遊ぶ小鯉かな」
句 素輪句碑 芳町 隆廣寺境内 寛政4・5

※「かんで鳶水もながれて江戸まじす」
句 山本郷樹句碑 芳町 正幸寺境内 大13・3

「暮乃戸も露の命のおき処」
句 桑古句碑 前橋公園 明32

「いつの間に夕かげ立ちし木樨かな」
句 前田晋維句碑 荒牧町 萩林北 昭14・8・16

※「草々のこの秋風に帰る来よ」
句 芭蕉句碑 上小出町 香集寺 嘉永7・酉

「しはらけは花の上なる月夜かな」
句 鬼城句碑 水産試験場裏 昭33・4

「山畑に石里ぞむ實日かな」
句 芭蕉句碑 上小出町 香集寺境内 文化8

「暎の水の花にまわぬがたかな」
句 無耳庵句碑 上小出町 香集寺内

「ゆがはの花のあたりのくれびり」
句 無満句碑 上小出町 三叉路

「庵のみこはねはねて草の中」
句 三ヶ月の句碑 芳町 正幸寺 安永8・11

「三月月広に空にも曲じて廣」
句 十夜尊の句碑 芳町 正幸寺 安永8・11

「祖父祖母の孫にもあまき十夜かな」
句 猫の碑 芳町 正幸寺 安永8・11

「妻殿におつる恋や星の滴」
句 芭蕉句碑 才川町 亀井義一氏庭内

「雲雀啼くかなの拍子や雉の声」
句 関口雨亭句碑 前橋市民館 昭35・7

「世念を捨しに非ず竹植る」
（高橋實貫一さん編）

